

700年の歴史を 持つ狂言の型を 次世代につないでいく。

狂言の世界だけではなく、日本を代表するクリエイター野村萬斎さん。
その跡を継ぐ長男・裕基さん、そしてアナウンサーとしてスタートを
切った長女・彩也子さん。初めてという「親子鼎談」が実現した。

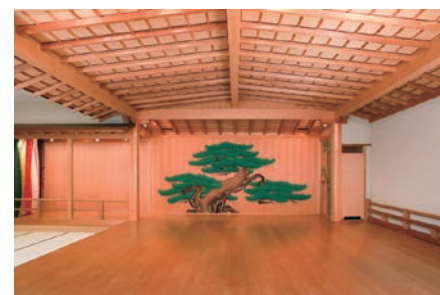


photo:Maiko Miyagawa Dresser:Mari Fujimoto(野村彩也子さん) text:Yuko Yanai

狂

言は室町時代に成立した、
日本を代表する古典芸能だ。

能と狂言は同じ舞台上で上演され、
狂言師は能の中の一役も担う。

狂言師・野村萬斎さんは狂言公
演だけではなく、現代演劇、映画
やテレビに出演し、狂言に多くの
ファンを呼び込んできた存在だ。

これからの狂言界を担う長男の
裕基さん、長女でTBSアナウン
サーの彩也子さんと共に、舞台や将
来のことを語り合っていたいた。
野村萬斎(以下、萬斎)：2020年
は舞台芸術にとっては苦難の年で、
私達も公演が中止や延期になりま
した。ただ狂言は700年に及
ぶ長い歴史の中で、応仁の乱もあ
れば、天変地異も乗り越えてきま
したから、精神的に慌てるという
ことはありませんでしたね。

もちろん、現場は大変でしたよ。
私は世田谷パブリックシアターの
芸術監督でもあるので、1カ月
間、稽古を重ねてきた舞台が上演
中止になって愕然とする方々を間
近で見っていましたから。

逆に言えば、狂言師が700年



自宅にある能舞台。左から裕基さ
ん、父である萬斎さん、姉の彩也
子さん。着物姿のスリーショットは
貴重だという。撮影の合間には、
和服の所作について、萬斎さんが
彩也子さんに指導する場面も。